



春夏秋冬⑦ 水かけ祭り

水をかけ合う ラオスの 暑い新年

文・写真 堀内孝

1963年宮城県出身。写真通信社を経てフリーの写真家。マダガスカルを中心としたインド洋世界と東南アジアをフィールドに取材を続ける。

東南アジアの国々で毎年4月に行われる「水かけ祭り」。ラオスでは、4月中旬の3日間、全土で祝う「ピーマイラオ」(ラオス正月)がそれに当たる。中でも多彩な行事に彩られ、華やかなのが古都ルアンパバーンだ。

快な水しぶきが舞う。

3日目の翌日には、この町独特の行事が行われる。王国時代から町の守護仏だった「パバーン仏」が王宮博物館から出され、ワット・マイ※で開帳されるのである。篤い上座部仏教徒であるこの町の人々はパバーン仏に聖水をそそぎ、ろうそくと花を供え、熱心に祈りを捧げる。

最も盛り上がるのは2日目と3日目に行われるパレード。先頭に立つのは真っ赤なお面がユニークな「プーニユー・ニャーニユー」だ。大地を創造した原初の夫婦だという。その後に、僧侶や少数民族、着飾った少女たちが続く。そしてパレードの最後に、いよいよ山車に乗ったミス・ルアンパバーンが登場する。その姿を一目見ようと、通りは身動きがとれないほどの人で埋め尽くされ、あちこちから豪

新しい年の幸せと健康を願い、盛大に水をかけ合ったこのラオス正月が終わると、ルアンパバーンは一年で最も暑い季節を迎える。



※1796年建立の寺院「ワット・マイ・スワナ・ブーン・ラーム」の通称。